

## 実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知工業大学名電高等学校
代表者名	建部恵子 (生徒代表: 嶋根由佳)
プラン全体のタイトル	<b>名電チャレンジ!</b> ～減らして防ぐ災害マニュアル～
電話番号	052-721-0311
メールアドレス	tatebe@meiden.ed.jp
実践団体の説明	愛知県高校生防災セミナーの募集をきっかけに、「MDPT」チームを設立。普通科、専門学科、情報学科、学年もバラバラの異色メンバー8人。毎週火曜日活動中。愛知工業大学 横田教授と月に1度ミーティングを実施。 「出来ることは何でもチャレンジ!!」
所属メンバー	<b>「MDPT(Meiden Disaster Prevention Team)」</b> 代表: 建部恵子[教員] 集約 リーダー: 嶋根由佳[専門学科3年] 全て統括 唐澤優宇[専門学科3年] 富岡千遥[情報学科3年] 松原瑞泉[普通科3年] グリーンジュリアン[普通科2年] 後藤友維[普通科2年] 鈴木皓太[専門学科2年] 中谷勇喜[普通科1年]
活動地域	千種区 上野学区 豊田市八草
活動開始時期・結成時期	2021年6月～
過去の活動履歴・受賞歴	2021年～ 愛知県高校生防災セミナー(うち4名のみ参加)
プラン全体の概要	<b>1. 避難訓練の検証・改善</b>  11月の避難訓練ではより実践に近づけた項目を提案し、実施。事前の活動として、危険箇所を確認して報告書を作成。生徒への呼びかけを行うとともに、学校に改善案を提出。今後、その資料をもとに危険物の撤去や修繕を実施してもらう予定である。  また、周知方法として動画の作成し玄関前モニターや学年集会での放映を行った。他にも、貴重品や帰宅支援キット(1日分の食料や救急背セット)の持ち出しやガラス飛散防止のためにカーテンを敷く、避難経路の簡易的な点検、規制避難を行うことで混雑の緩和を試みた。そして、災害時

にけが人が出ると予想していくつかのクラスに設定した。教員には告知なしで行ったため、対応は三者三様であった。今回は「動ける」ということを前提で行っていたため、今後は「動かしてはいけない」状態での訓練を実施できたらと考えている。

## 2. ガラスの実験

本校はガラスを多く取り入れた校舎となっており、明るく、開放的である。しかしその反面、災害時での二次災害が不安要素としてある。そのため、ひび割れなどを検知して危険を迅速に伝える装置の開発ができないかと考えた。今年度は装置開発までには至らなかったが、ひずみゲージを用いてガラスや代用品としてアクリル板でのデータ収集を実施した。静荷重で、日照による変化を観察した。

## 3. 備蓄倉庫の改善

備蓄は充実してるものの、乱雑に置かれている。そのため災害時に誰でもわかりやす取り出せるよう、コンテナを用いて整理整頓を行っている。今後は、スマートフォンを用いた在庫管理を行っていく予定である。

## 4. 校内防災意識向上活動

防災意識向上の推進を行うため、「MDPT」というチームを設立。新たに避難経路の作成や、垂直式救助袋の実地体験、愛知県高校生防災セミナーへの参加、防災士資格取得(予定)、3月に行われる日本災害情報学会へ参加などを実践的に行っている。そして、防災教育チャレンジプランのご縁で、愛知県刈谷市井ヶ谷町内体育部のみなさんが実施された「防災運動会」に参加させて頂くことができた。

## 5. 防災委員会の設立

防災意識向上と活動維持のため、来年度に向けて「防災委員会」の設立予定である。

## 6. 大学・企業・自治体との連携と学習活動

愛知工業大学を始め、多くの大学や企業方々にご協力いただき大変貴重なお話を伺った。多くの知識や、多角的に見ることの重要性を感じた。次年度からは、この知識や危機管理を本校にて周知していく活動が重要となっていく。また、1人でも多くの防災リーダーが誕生できるよう邁進していく。

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	火災訓練	避難経路のデータ集約	データ集約・観察
5月	計画	ア ポ イ ン ト ・ 準 備	年間計画再設定
6月	講習会		AGC、AED 講習会 ガラスに関する取材
7月	実習		AGC ガラス破壊実験
8月	講習会/実習		愛工大・共和電業 ガラスセンサ実施実験 垂直式救助袋の実地体験 高校生防災セミナー発表会 東海ラジオ 取材
9月	ガラスデータ検証/講習会		共和電業 ガラスセンサ実施実験 千種区役所・上野学区長 講演会
10月	講習会		防災教育チャレンジプラン中間報告 井ヶ谷町 防災運動会参加 竹中工務店 講演会
11月	避難訓練	要綱などの作成	周知オリジナル動画作成 トラップカード作成 要綱改善など 千種消防署 講演会
12月	高校生防災セミナー発表	発表資料準備	ガラスデータ計測
1月	まとめ	発表資料準備	ガラスデータ計測
2月	防災士資格取得	資料作成	防災士講習会 参加
3月	日本災害情報学会	論文	日本災害情報学会参加

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>できるだけ多くの大学の先生や、企業の方、消防や区役所、上野学区会長などの方々にお会いして話を伺うことができた。また、避難訓練に関しても大幅に要綱を変更し、より実践的なことを試みた。そのため、周知が徹底できず混乱を前いてしまった部分も見受けられた。しかし、学んだ知識を活かせるような取り組みができたと考えている。今後は、多くの人の意見を取り入れながら1人でも多くの命の守り方を実施していく必要があると強く感じた。また、チームメンバーを集めることに苦戦しているため、その点も課題である。</p>
今後の活動予定	<p>今後は、校内周知を行っていきたい。チームメンバーが知りえた情報を周知し、災害に対する意識付けを定着させていく。また、より実践的な避難活動を行うことを目標に、改善を行っていく予定である。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知工業大学名電高等学校
実践番号	1
タイトル	荷物は持った?! あ、怪我人が!!! 慌てず行動できるかな? <b>うちの学校の避難訓練</b>
実践担当者のお名前	建部恵子(生徒: MDPT チーム)

実践にかかった金額	不明(分類わけ未処理のため)
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 11 月 16 日 4 限目(11:40~12:30)
実践の所要時間	50 分
実践の運営側で動いた人の人数	9 人
防災教育の対象者の属性	高校生・大学生
防災教育の対象者の人数	約 1600 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 名古屋市 千種区
実践を行った具体的な場所	愛知工業大学名電高等学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	けが人の救助方法・対応、対応力、スマホカメラ、帰宅支援キット、タブレット、

達成目標	約 1600 人の生徒が安全に避難できる 本校はグラウンドに出るまでに公道を通る。本来ならば屋内避難が理想であるが、大きな震度の場合には出れないだろうと仮定した。そのため、少しでも安全にとっさの対応にもできるような工夫が必要である。そのためのトラップも用意し、より実践的な工夫を凝らした。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p><b>① 災害時の想定</b></p> <p>本校で起こりうる災害を検討した結果、地震による災害が大きいと判断した。これは地盤、災害マップから検証した結果である。そのため、地震を想定した訓練を重点的に行うものとした。(人的災害を除く)</p> <p><b>② 避難経路</b></p> <p>本校は校舎から避難するグラウンドまで横断歩道や人3人ほどしか通れない道に行く必要がある。そのため屋内避難を想定した検証を行ったが、大規模震災では屋外に避難せざる負えないという結論となった。</p> <p>危険個所を観察し、報告書を提出。本校(電気学園)に提出し、撤去・改善を求めた。今年度内の対応をお願いし、進行中である。</p> <p><b>③ 周知活動</b></p> <p>より実践的にするため、避難訓練の要綱を大幅に改善。簡略化した紙は用意したものの周知徹底は難しいと判断し、「MDPT」を主体として、生徒会コラボ部やメディアコミにケーション部、教員にも協力してもらい動画を作した。学年集会や正面玄関モニターでの放映を避難訓練実施1週間前から行ってもらった。</p> <p><b>④ 避難時の対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窓ガラスが飛散する可能性があることを想定しカーテンを閉めること。</li> <li>・大規模災害があった場合、避難後に教室へ帰れることが困難な可能性も考慮し、帰宅支援キットと貴重品の持参。その際には手袋を着用し、怪我防止を図った。</li> <li>・「トラップカード」歩ける程度のけが人を設定し、4クラスに配置。教員には告知せず、対応を検証した。</li> <li>・規制避難を実施し、混雑を分散することを行った。以前、渦巻き階段を検討し、実施したが、ポールを常に設置しなければならない点もあり改善が必要であった。そのため、放送による規制避難であれば緩和が見込めると想定したためだ。</li> </ul> <p><b>⑤ スマートフォンによる撮影</b></p> <p>首からスマートフォンを下げて生徒のスマートフォンで撮影を試みた。これはカメラの数が足りなくても多く情報を取り入れられるのではないかと、という観点からと生徒たちが何を話しながら行動しているか検証するためである。</p>	
得られた成果	<p>「MDPT」チームを中心に多くの生徒や教員が協力し、動いてくれた。また、「MDPT」チーム1人、1人役割を持ち、行動することができていた。学習したことを、実践する。主体的に行動することができたと考える。</p>	
どのくらい身につく	知識・技能	かなり



図1 トラップカード(けが人役)

ましたか？	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	<p>・<b>周知方法</b></p> <p>周知が徹底せず、混乱を招いてしまったところもあった。そのため、一度に情報を出すことのないように時間をかけていくことや、周知方法も検証するべきである。</p> <p>・<b>「トラップカード」</b></p> <p>けが人を設定し対応を検証したが、三者三様であった。また、今回は「けがをしているけれど動ける」という設定であったため、けがをしているのに恥ずかしくて申し出れなかった生徒や避難後にけがをしていることを伝えた生徒もいた。実際の災害時でもあり得ることであると想定される。統一しておく必要はないものの、「想定する」ことは必要であると考えため、今後も定期的に様々な想定で実施していく。また、「動けない」「動かしてはいけない」といった想定もしていく必要がある。そういった場合は、対応の検討を事前に行うことが大切である。</p> <p>・<b>避難時の混乱・訓練の想定</b></p> <p>今回は避難を軽減するため規制避難としたが、災害時にできるとは限らない。また、心理的状況を考えるとその場で留まることが困難であることや、授業中以外の想定で検討していないため、今後はあらゆる想定をしていく必要がある。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	横田崇教授、研究室のみなさま・愛知工業大学
関係者の説明	実施に伴う打合せや撮影協力
関係者の連絡先	0565-48-8121

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	避難をする全部の企業と学校施設など
伝えたい内容	より実践的な想定を！

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知工業大学名電高等学校
実践番号	2
タイトル	ステキな校舎にはウラがある… <b>光って知らせる！ガラス飛散防止装置</b>
実践担当者のお名前	建部恵子(生徒：MDPT チーム)

実践にかかった金額	不明(分類わけ未処理のため)	
実践の準備にかかった時間	数ヶ月	
実践活動を実施した日時	随時	
実践の所要時間		
実践の運営側で動いた人の人数	9 人	
防災教育の対象者の属性	高校生・その他	
防災教育の対象者の人数	約 9 人	
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 名古屋市 千種区	
実践を行った具体的な場所	愛知工業大学名電高等学校	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ガラスの知識、実験に必要な知識、ガラス、ひずみセンサ、測定機器、ガラスを固定するボックスの作成	
達成目標	(本来) ガラスが飛散する前に周囲に警告 (今年度) ひずみセンサを用いたデータ収集 ガラス張りのきれいな校舎である反面、災害時には飛散する可能性のある危険物質となる。少しでも二次災害を防止するため、ひびの入った状態であれば光が点灯するような装置を作ることにより多くのけが人や命が守れるのではないかと考え、開発に挑んだ。	
どの力を身につけようとしてきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>① <b>ガラスの性質を知る(知識)</b>                  ガラスの特性を知るため、AGC、竹中工務店の方に来校・ネットにて講習会を行っていただいた。学校のガラス窓には「スクールテンパライト」が使用されており、通常の割れ方とは違うことも分かった。                  また、ガラスが割れやすい部分やサッシとの関係、スライドを用いて詳しく教えていただくことができた。</p> <p>② <b>ガラスの性質を知る(実践)</b>                  AGCの方に何種類かのガラスをいただき、衝撃実験を行った。ガラスによって割れ方は異なり、知識で得られたことを実証することができた。</p> <p>③ <b>装置に必要なセンサを調べる</b>                  ひび割れを検知して知らせるにはどの方法がよいのかを知るため、実際に災害時で割れてしまった仙台メディアテイクの方に原因を伺うことができた。またセンサの選定では東京測器の方にお話を伺い「ひずみセンサ」を用いることにした。</p> <p>④ <b>ひずみセンサを実際に使用する・購入する</b>                  愛知工業大学、共和電業の方にご協力をいただき、ひずみセンサを用いた数値の読みとり実験を行った。どのようにセンサを張り付けることで、データとして有効なのかなど聞き、実験装置の製作と測定機器をお借りしてデータ収集をメインとして実験を行っていくことを目標とした。</p> <p>⑤ <b>ひずみセンサによるデータ収集</b>                  ガラス・プラスチック(ガラスに近いものとして実験用で用いた)を野外に放置し、静荷重で日照によるひずみの影響を計測した。</p> <div data-bbox="997 197 1437 421" data-label="Image"> </div> <p>図2 ガラスの構造講習会(竹中工務店)</p> <div data-bbox="1002 1070 1437 1346" data-label="Image"> </div> <p>図3 ひずみ実験(屋外)</p>	
<p>得られた成果</p>	<p>目標を達成するまでの過程の難しさ、実験を行う意義や材料や装置の性質などを学習しながら実験を行う大変さを体感することができた。また、地道な努力が必要であり根気強さも身についた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>『「もうすぐ割れるよ！危険だよ！」って知らしてくれた便利だね。』                  何気ない会話から装置の開発を行うことになった。少し安易に考えていた部分があるのは確かである。しかし、行動を起こしたことで知識だけでなく材料や計測器の提供、実験を一緒に行ってもらうなど、多くの企業の方々や愛知工業大学の先生にご協力して頂くことができた。</p>	



	<p>安易に考えていたため装置を作成するまでに至らず、測定器を正しく扱う、静荷重のデータを取ることに留まった。また、ガラスを用いて実証実験を何度も繰り返すことは困難なため、アクリル板を用いて実験を行った。そのため、ガラスとアクリル板の性質の相違を数値的に比較することや、実際にひびが入った場合、どの点にセンサが設置されていると反応するのかを検証していく必要がある。その際、窓の中心にひずみセンサを設置してしまうと風景をそこなうことも想定されるため、センサの設定位置などの考慮して行かなければならない。今一度、コンクリートや他の素材でひずみを検知しているものはないか調査し、導入できることはしていきたい。今後、目標としている「装置」の開発にはまだまだ時間を要する。しかし、この「装置」が開発できることで学校施設や病院、多くの公共施設にて利用できると推測される。</p>
--	---

<b>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</b>	
関係者の名前・団体名	横田崇教授・愛知工業大学
関係者の説明	定期的な打ち合わせ、相談、ご助言を頂いている 本校を設計している青島設計をご紹介頂いた
関係者の連絡先	0565-48-8121

関係者の名前・団体名	鈴木森晶教授・愛知工業大学
関係者の説明	計測実験機材を貸していただき、使い方に関してもご指導頂いた ひずみゲージを購入した共和電業をご紹介頂いた
関係者の連絡先	0565-48-8121

関係者の名前・団体名	西川辰司様・株式会社青島設計
関係者の説明	本校を設計 設計した際のボーリング調査結果に基づく地盤の状態や本校の構造についてご教授頂いた AGC グラスプロダクツ株式会社をご紹介頂いた
関係者の連絡先	052-262-2341

関係者の名前・団体名	植田智治様・AGC グラスプロダクツ株式会社
関係者の説明	ガラスについての構造の解説(ZOOM 会議) ガラスの衝撃実験のご協力（本校来校） 実験用ガラスをご提供して頂いた
関係者の連絡先	052-589-9744

関係者の名前・団体名	石川圭一郎様・株式会社竹中工務店
関係者の説明	教員研修にて訪れた名古屋機材センターでガラスについてご相談したところ石川様をご紹介頂き、ガラスについてご教授頂いた。 事前・事後には貴重な資料を頂くことができた。
関係者の連絡先	0587-53-3621

関係者の名前・団体名	矢野隼大様・株式会社共和電業
関係者の説明	ひずみゲージと購入に際してご説明して頂いた ひずみゲージを実験する際には、測定するまでの手順をご教授頂いた 測定に関する道筋のご助言を頂いた
関係者の連絡先	052-774-8111

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	開発を伴う研究について行っている方々
伝えたい内容	様々な企業の方々に話を伺うことで、困難だと感じたことも解決の方向へと向かっていきました。聞きたいと思ったら、連絡することで大切だと感じました。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知工業大学名電高等学校
実践番号	3
タイトル	楽しく、やりたい! 知りたい! ことは、即実行!! <b>MEIDEN イズム</b>
実践担当者のお名前	建部恵子(生徒: MDPT チーム)

実践にかかった金額	不明(分類わけ未処理のため)	
実践の準備にかかった時間	数ヶ月	
実践活動を実施した日時	随時	
実践の所要時間		
実践の運営側で動いた人の人数	9 人	
防災教育の対象者の属性	高校生・その他	
防災教育の対象者の人数	約 9 人	
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 名古屋市 千種区	
実践を行った具体的な場所	愛知工業大学名電高等学校	
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	実行力、興味・関心、いかに楽しんで行うことができるか、タブレット、情報ツール	
達成目標	①楽しく ②高校生主体 ③防災の和を広げる マニュアル化された避難訓練の改善、被災者となりうる人が安全に正しい判断ができるような事前知識の周知が重要であると考えている。そのためには主体的に、楽しみながら行ってもらうことが必要である。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

## 実践内容・方法

## ① 楽しく主体的に

何より「楽しく」ということを意識していた。そのためチームだけの時間を多く設けること、教員が最終判断すること、雑談をしながら道筋を立てていくことなどを行った。指導する、ということよりも一緒に学習し、生徒の判断が最善であると客観的に判断した場合は、その判断を尊重した。道筋から外れてしまうことも多く見受けられ根気を要したが、それでも何度も行うことで生徒たちなりの答えを導き出すことが主体的に出来るようになっていた。また、1人1人に役割分担をしてもらうことで多くのことにチャレンジすることができた。



図4 備蓄に購入したテントの設営練習

## ② 名刺の作成

生徒たちが校外的な活動を多くしていくことが最善だと考え、名刺の作成、可能な場合は電話やメールでのやり取りを積極的に行ってもらうようにした。



図5 ドロップボックス(資料共有)

## ③ データの共有

作成したデータをドロップボックスで共有をした。また、データに共有をかけて自宅からでも共同で作業できるように時間の効率化をはかった。他にもロイロを

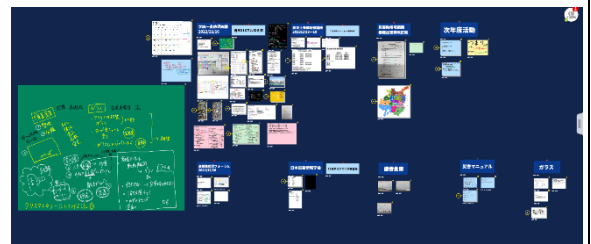


図6 ロイロ共有ノート(同時に記入可)

用いた共有ノートの作成、オンラインでの打ち合わせを積極的に活用した。

## ④ 多くの人に会い、話を伺う

この1年で多くの方々にお会いすることができた。また、企業・大学の先生方も快くお話しいただき、困ったときにはご相談に乗っていただくことも出来た。明確な目標を持ち、何が困っているかなどが明確になっていたことで疑問点を投



図7 防災運動会参加時の記念写真

げかけることができているように感じる。また、企業のつながりでご紹介いただくこともあり、輪が広がっていくことができた。

## ⑤ 災害に対する専門的知識

研究を進めていくうちに「もっと深く学びたい」と感じるようになり、積極的にチャレンジできることは行ってきた。備蓄倉庫の管理、「MDPT」チームの拡大、生徒に対しての災害意識向上のための活動、2月には防災士の資格取得予定だ。

得られた成果	<p>主体性</p> <p>多くの方々との交流を通して、積極的・主体的に生徒が行動することができた。そのため生徒からの発案も多く見受けられ、11月の避難訓練における定義書などはメンバー1人がそれぞれ1枚以上を書き上げ提出するに至った。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>① <b>災害はみんなが考えていくことが大切</b></p> <p>被災をするのは生徒も教員も同じである。それならばより多くの教員、生徒が意識してもらうことが大切だと考える。実際、この機会をもらうまでは思考を凝らした避難訓練の要項を考えつつも、マニュアル化された訓練のように行われていた。今回、実施に行う訓練を生徒が主体的に考えたことで、それが波のように違う生徒に伝達していった。サポートすることは教員であるかもしれないが、災害が起こった時には教員はいない可能性もある。その時、生徒たちだけでも行動できるような意識づけを普段から出来るような活動を継続的に行っていく必要がある。</p> <p>② <b>周知の徹底</b></p> <p>要項を改善することは良いことである反面、変更点などの周知の徹底が難しい。そのため、周知方法を考えていく必要がある。</p> <p>③ <b>防災意識の向上</b></p> <p>防災意識の向上を想定した場合、授業に組み込んで必要がある。そのため、パッケージ化した防災教育(授業を利用して防災教育を浸透させていく。避難訓練動画+マイタイムライン作成などパッケージ化することで担当教科の負担を減らしながら防災教育を取り組む)や、中学生への防災教育(本校には中学校が併設されているため、高校・大学が中学生に防災教育を行う)を実施していきたいと考えている。また、愛知工業大学が実施している「学ぼうラボ 高校の部」が設立されるためその部門との連携を行いながら推進していく。</p> <p>④ <b>継続</b></p> <p>現在のMDPTチームの半分は3年生である。1学年の生徒も1人と存続の危機に瀕している。「防災委員会」を立ち上げる予定にはなっているものの、防災リーダーとなりうる存在を増やすには防災活動を生徒や教員に知ってもらい、参加したい！という意欲を沸き立たせる必要がある。新たな取り組みを多く取り入れることや、積極的・主体的活動となるよう環境づくりに力を入れていく。</p> <p>⑤ <b>地域の中心に</b></p> <p>地域での積極的活動もそうだが、コミュニティーラジオの開設行いたいと考えている。これは情報共有の1つのツールとして重要である。</p>	
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について		

関係者の名前・団体名	福和伸夫名誉教授、名古屋大学
関係者の説明	防災・減災についてご教授頂いた 屋内避難が可能かどうか、ご相談させて頂いた
関係者の連絡先	0527893468

関係者の名前・団体名	大島亜樹子様、愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部のみなさま
関係者の説明	防災教育チャレンジプランを通してお会いし、みなさんが主宰された防災運動会に参加させて頂いた。
関係者の連絡先	0566-26-2101(愛知教育大学)

関係者の名前・団体名	二和田寛様・上野学区区政協力委員会委員長
関係者の説明	以前の上野学区周辺の様子、上野学区における避難に関するお話、災害に関するお話をさせて頂いた。名古屋市千種区役所の方を紹介させて頂いた。
関係者の連絡先	052-721-2455

関係者の名前・団体名	日比克巳様、横井栞様・名古屋市千種区役所
関係者の説明	防災に関するお話をさせて頂いた。
関係者の連絡先	052-762-5044

関係者の名前・団体名	西博行様、浅井正史様・名古屋市消防局
関係者の説明	防災に関するお話をさせて頂いた。
関係者の連絡先	052-764-0119

関係者の名前・団体名	井田勝也様、東海ラジオのみなさま
関係者の説明	防災教育チャレンジプランを通してお会いし、みなさんが主宰された防災運動会に参加させて頂いた。
関係者の連絡先	052-951-2525

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	学校機関、企業の方々
伝えたい内容	もっと多くの方々と一緒に様々な取り組みを行っていきたいです。